一関地方産業まつり

特産・名産品がズラリ

商工祭

商工祭は10月26日から28日までの3日間、一関文化センターを会場に催されました。

会場には地元の特産品や工芸品が勢ぞろい。姉妹都市の福島県三春町、友好都市の宮城県気仙沼市の物産と観光のコーナーも設けられ、来場者は心を弾ませながら商品を選んでいました。

ステージには小中学生のものづくり体験コーナーのほか、アザラシ型知能ロボット「パロちゃん」も登場。生きているような動作に、子どもたちは「かわいい」となでたり抱っこしたりして、人気を集めていました。

姉妹でこけしの色塗りに挑戦。お気に入りのこけしが作れるように、ゆっくりと丁寧に色を塗っていました

外には足湯体験コーナーも。会場を歩き回った来場者が気持ちよく疲れを取っていました。

太鼓やよさこいによる力強い演技もまつりを盛り上げ、連日多くの来場者でにぎわいました。

新鮮な特産品を買い求める人で、会場は連日にぎわいを見せました

家族連れなど大勢の人でにぎわいを見せた農業祭会場

農業祭

農業祭は11月3、4の両日、一関市総合体育館前広場を会場に催されました。

会場にずらりと立ち並んだテントでは、市内各地域の新鮮な農作物や加工食品、花、植木などが販売され、来場者は出店者と盛んにやりとりしながら商品を買い求めたり、飲食コーナーで名物のもち料理や岩手南牛などに舌鼓を打ったりしていました。

また、パン焼きやシイタケの植菌などの体験、丸太切り、陸上自衛隊東北方面音楽隊による演奏、大東地域の峠山伏神楽保存会による神楽、骨寺村荘園遺跡のPR、アイデアもち料理コンテスト「もちりんピック」など多彩なイベントも催され、大勢の人でにぎわいを見せていました。

大人気のパン焼き体験コーナー。地元産小麦を使用した生地を竹に巻き、炭火で焼いて出来上がり。おいしそうなにおいが立ち込めました

館下橋開通

三代渡り初めで開通祝う

大東町大原と住田町世田米を結ぶ市道大原世田米線館下橋の架け替え工事の完成に伴い10月28日、来賓や関係者、地域住民など約300人が出席して開通式が行われ、待望の開通を祝いました。

式典では交通安全祈願、関係者によるテープカットが行われ、浅井市長が「旧館下橋は地域間交流や通勤通学、産業道路として重要な役割を果たしてきたが、幅が狭く、通行に支障を来していた。新館下橋は、車両はもとより歩行者も安心して通れる橋に生まれ変わり、これまで以上に地域発展に大きく寄与すると確信している」とあいさつ。大東めぐ組太鼓による力強い演奏が式典に花を添えた後、地元の芳賀博さん方の三代夫婦や関係者による渡り初めが行われ、真新しい橋を一歩一歩踏みしめて、完成を喜び合いました。

近くに住む金野美保子さんは「昔の橋は、車1台しか通行する幅がなくて大変不便でした。新しい橋の架け替え工事中は、約1年間通行することができず不便でしたが、待ちに待った開通式ではこのように大勢の人が祝福に駆けつけ、『本当に地域から愛されている橋なんだなあ』と実感しました」と喜びを語りました。

平成17年度から約2年半の工期をかけ、1億5750万円の総事業費を投じて完成した新館下橋は、橋の長さ40・2メートル、車道の幅は7メートル。今後、地域間の交流や経済・文化の発展などに大きな役割を果たすものと期待されています。

浅井市長や芳賀さん方の三代夫婦を先頭に渡り初めが行われました